

ふるさと 資料紹介

= ④ =

古文書にみる
近世庶民のくらし⑧

家出

「高二〇石、地面二町歩ヨ

リ少キ田地持ハ、子孫ヲ始メ
諸親類の内へ田地配分マカリ
ナラズ候」〔文化二四年（一八
一八）廿屋村五人組掟書〕。

米の穫れ高なら二トン（五
〇俵）、面積なら二ヘクタール
以上持っているものでなければ
「分家」を出してはならな

一百廿石子孫合カ各在二五俵

地五五町歩少跡を在二五俵

二五俵在石地五町歩少跡地持

子孫ノ始末記難ク自田配

不存成る厄介人ありしに

耕作ノ備へる海産の採取も

亦云人の名を以て

いということでした。次男、三男は「厄介人」と呼ばれ、長男の手伝いか、奉公に出て「渡世」することになっていました。

天保七年、年の暮れのある朝、祐泉寺の門外にみすばらしい男が倒れていました。一三年前、村掟に我慢仕切れず、家出した市右衛門でした。兄が駆け付けたときには死んでいました。

翌年、松五郎が家出しました。親類や五人組の人達が、三〇日尋ねをしましたが、発見できませんでした。二カ月ほど経って品川の御救い小屋から連絡がありました。しかし誰も受け取りに行きませんでした。

今回は、次の方々から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございます。

（平成六年九月分）

○岡本一平漫俳句集

（福住久雄さん／太田町）

博物館建設のため各種の資料を収集しています。社会教育課文化係（内線二八二）まで情報をお寄せください。

ふるさとの宝ものみっけ！